ガイドがいど

レディスクラブからのお知らせ

①バザール報告

10月29日ホームカミングデーのバザールに参加しました。収益は51万5431円となり、10万円を校友会維持会費として納め、残りをレディスクラブ国際交流奨学金に積みたてました。毎年、ご協力下さる会員、地方支部の皆様、本当にありがとうございました。献品をお寄せ下さった会員以外の方々のお名前を掲載しお礼にかえさせていただきます。

㈱トンボ鉛筆、㈱マリークレール、㈱アリミノ、森永製菓㈱、㈱鴻池製作所、小宮山昭一、河野光子、船見静子、関谷隆一、折原恭子、竹内和子、湯浅葉子（順不同・敬称略）

②国際交流奨学金受給者決定

2006年度は、コミュニティ福祉学研究科コミュニティ福祉学専攻前期1年の王挺（ワン・ティン）さん（中国遼寧省出身）に決まりました。研究テーマは、「日中の地域福祉の実践比較」。

▲田森会長（左）と

③公開講座

「蒼き狼たちの雄叫び」
―チンギス・ハンの精神の軌跡を追って―

雲のはてを望みつつ世界制覇の一大事業にのり出してゆくチンギス・ハン。一体彼の内部の何が彼をして、このように巨大なエンタプライズを行なわしめたのであろう？一体どのような精神のうずきが彼を駆り立てたのであろう？この辺の謎を追ってみよう。それが今回の狙いである。（講師メッセージ）

▽講師　川﨑淳之助先生
▽日時　2月2日（金）13時～15時
▽場所　セントポールズ会館
▽会費　会員800円　一般1000円
▽申込み　鎌田文子（40英）
Tel/Fax 03-3381-3854
▽講師プロフィール
立教大学文学部元教授、日本ワイルド協会名誉会長。1990年ユネスコのモンゴル淡水湖保全調査プロジェクトに招かれ参加。関連著書『ジンギス・カンの謎』講談社現代新書他

④フランス語講読

新しいテキストを読みはじめます。16才の少女が主人公の日記体の小説で作者は14才の少女です。活きのいいフランス語にふれることができます。

▽日時　毎月第2火曜日10時～12時
▽場所　セントポールズ会館2階
▽講師　手塚伸一先生
▽テキスト　『ランヴォレ』（飛翔）
▽会費　5回8000円（会員割引あり）
▽連絡先　佐藤久美子（48仏）
Tel/Fax 03-3403-3435
※③④はOG・OBどなたでも参加出来ます。

立教エコーDVD保存完成 OB・OGの支援実る

学生によって発行された英字新聞RIKKYO ECHOがDVDに収録されて永久保存されることとなり、このたび図書館でその作業が完了しました。RIKKYO ECHOは学生が発行する英字新聞として戦後1952年に復刊され、立教のひとつのシンボルとして全国の高校にも発送されておりました。発行された新聞は図書館に保管されておりますが、経年変化とともに劣化が進み永久保存のために電子データ化が望まれておりました。先日行われた立教エコー同窓会を機にOB・OGからの支援が集まり、費用の一部を賄うことで図書館にRIKKYO ECHO電子化をご決断頂きこのたび完成の運びとなりました。DVDを自由に検索、閲覧するには更に索引づくりが必要で公開には日時を要しますが、校友の力で貴重な歴史資料が永久に保存されることとなりました。

（S38経　岡田倫政）

威友会（経済学部小林威雄ゼミナールOB会）公開講座 世界自然遺産「白神山地　ブナの森を歩き、自然とのつきあい方を学ぶ」

秋田県の北、青森県の南、両県にまたがる千メートル級の山並み、そこが白神山地である。この山々にはかつて日本の森を形作り、今、姿を消しつつあるブナの森が広がっている。気の遠くなるような時間が育んでくれた原生の森である。この山々のブナの林は、動植物相の多様さと自然の姿を保っていることで世界でも特異な森として、1993年ユネスコ世界遺産に登録された。ブナの森は四季折々、千変万化の顔を見せる。苔をまとった岩があちこちに転がり、樹齢を重ねた大木が根をくねらせながら立つ。白神のブナ林は、映画「もののけ姫」のモデルとしても知られています。

今般、白神山地世界遺産センター藤里館の斎藤栄作美さん（57）をお迎えして、白神の魅力、素晴しさを映像を交えながら大いに語っていただきます。

▽日時　平成19年2月3日（土）14時～17時　1時間半の講演に続き簡単な懇親会（千円程度）も予定しております。
▽場所　立教大学第一食堂2階「藤棚」
▽演題　世界自然遺産「白神山地　ブナの森を歩き、自然とのつきあい方を学ぶ」
▽講師　斎藤栄作美（白神自然アドバイザー）
▽問合せ　足立一夫（昭44経）
Tel/Fax 03-3952-8105
Mail adachi-apsara@mui.biglobe.ne.jp

池袋キャンパス・新座キャンパス 学生の定期健康診断補助業務社会人助手（アルバイト）募集について

◎勤務内容及び条件・給与
▽対象　社会人女子、年齢30～45才位まで（学生不可）
▽内容　定期健康診断補助業務（計測・誘導その他）
▽待遇　時給1000円、交通費1日往復1000円以内支給

◎勤務場所
池袋キャンパス（池袋駅下車徒歩7分）
▽勤務日　2007年3月30日（金）～4月9日（月）（除く31日・1日・8日）
※3月30日は全員出勤。
※期間中連続勤務ができる方。
▽勤務時間　3月30日14時～16時（担当業務別説明）
4月2日・3日・4日・5日8時30分～16時30分
4月6日・7日・9日8時40分～～16時30分（各日1時間程度、勤務時間前後する場合があります）

◎勤務場所
新座キャンパス（東武東上線志木駅下車徒歩20分）
▽勤務日　2007年4月5日（木）～10日（火）（除く8日）
※4月5日は全員出勤。
※期間中連続勤務ができる方。
▽勤務時間　4月5日14時～16時（担当業務別説明）
4月6日・7日・9日・10日8時40分～16時30分（各日1時間程度、勤務時間前後する場合があります）
○お申し込み、お問い合わせ
立教大学人事課
アルバイト募集係
Tel 03-3985-4765

卒業生向け職業紹介・就職支援事業

株式会社立教企画では立教大学キャリアセンターと協働して、卒業生の皆様を対象に職業紹介ならびに就職支援事業を行っています。立教企画の担当者は企業勤務経験者であり、企業の視点を踏まえたサポートが可能です。お気軽にご相談ください

■ お仕事をお探しの方 ■

就職や転職をご希望の方、ご相談下さい。（費用はかかりません）面談は予約制ですのでお名前、卒業年、卒業学部学科、面談希望日時を第3希望まで明記の上、Eメールをお送り下さい。返信に登録フォームを添付させて頂きますのでパソコン等のメールアドレスからお願い致します。

■ 人材をお探しの企業様 ■

第二新卒や経験者などの採用をお考えの人事担当者様、ご相談下さい。（採用決定した場合に手数料を申し受けます）求める人物像について求人票をEメール添付またはFAXにてお送り下さい。（求人票フォームについてはこちらからEメールでお送りすることもできます。）

お問合せ　株式会社立教企画（立教学院100%出資）
職業紹介・人材紹介担当　03-3985-2854
Eメール　shokai@grp.rikkyo.ne.jp
URL　http://www.rikkyo.ne.jp/grp/kikaku/

㈱立教企画は学校法人立教学院が100%出資して設立した法人です。立教大学ならびに近隣大学の省力化・合理化に協力しています。
【主な事業内容】人材派遣業（派遣先：立教大学をはじめ近隣大学等）、施設貸出管理業（教室貸出等）、教育環境整備事業（校内清掃等）、保険代理業、他

■ 派遣登録も随時受付中! ■
haken@grp.rikkyo.ne.jp

青春！立教

祝！日本サッカー殿堂入り

横山　謙三氏（41社）
元日本代表ゴールキーパー

サッカーを通じて良き師や仲間と出会い、サッカーによって五輪出場のチャンスを得、その後ずっとサッカーと共に人生を歩んできた。私の人生の基盤となったのは、立教大学で過ごした学生時代である。

入学と同時にサッカー部に入部した私は、グラウンドの近くにある秀久寮で生活しながら練習に励んだ。当時としては、かなり恵まれた環境にあったと思う。サッカー部は上下関係がはっきりしていて、昔の典型的な運動部そのものであった。部の規律や上級生が決めたルールを守らなければ、長距離走やウサギ跳び（膝に過重な負担が掛かるので今では絶対にやらせない）などの、いわゆるお仕置きのようなことを容赦なく命じられた。試合に出場する機会のない下級生にとっては、皮肉にも、それがコンディショニングトレーニングの代わりでもあった。

私の頭の中に常にあったのは、「どうしたら上手くなれるか」ということである。ゴールキーパーの私に大きな影響を与えたのは、同期生の青井忠四郎のプレーである。彼は非常に才能のある質の高いゴールキーパーだった。日本代表選手の中にもライバルはいたが、彼より才能豊かな選手はいなかった。どのゴールキーパーのプレーを見るより、彼のプレーから多くを学んだ。私にとって彼は、友でありライバルであり、そして大切なコーチであった。

大学2年の時に日本代表メンバーに選ばれ、日本で初めてのプロコーチとしてドイツから来日した、デットマール・クラマー氏（日本サッカーの父）に近代サッカーを教わる機会を得ることができた。また、日本代表チームとして出かけた海外遠征では、欧州、南米、東南アジアを始め、当時は行き来することが容易ではなかった共産圏諸国にも訪れ、数多くの試合をした。初めてそこで世界レベルのサッカーを思い知らされることになる。世界のサッカーを知ることは我々のサッカーのレベルを認識することでもある。と同時に、日本のサッカー環境が極めて低レベルにあるということも痛感した。例えば、ドイツでは芝生のサッカーグラウンドが何面もあるスポーツクラブが各地に点在しており、ブラジルでは街のあちこちで子どもたちがボールに戯れる光景をよく目にするくらいサッカーが盛んであった。何故ドイツの選手が強いのか、ブラジルの選手がどうして上手いのか、その理由を自らの目で見て、肌で感じて知ったのである。

こうした経験は、サッカーの技術向上にプラスになっただけではない。世界各国の文化や人々と交流する意義なども学ぶことができた。好奇心に富み、吸収力のある学生時代に世界を巡った経験は、私の人生の中で大きな財産となった。

誰もがそうかもしれないが、振り返ると何故あの時もっと努力しなかったのだろうと思う時がある。若い人には、興味を持ったことに積極的にチャレンジしてもらいたい。目標に向かって努力する姿勢を持っている人が楽しい人生を送れるのではないかと思う。

■プロフィール
1964年 東京オリンピック出場
1966年 立教大学社会学部社会学科卒業
1968年 メキシコオリンピック出場 銅メダル獲得
1988年 日本代表監督就任
1994年 浦和レッズ監督就任
2006年 日本サッカー殿堂入り
※東京オリンピック、メキシコオリンピックなどで活躍した渡辺正氏（37社・故人）と共に2006年8月10日、日本サッカー殿堂入りを果たした。